

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200317		
法人名	有限会社 ペイント・プランニング		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	宮城県登米市豊里町内町浦36		
自己評価作成日	令和3年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活歴・趣味・個々の特性を把握した上で、それぞれ今出来ることを手伝って頂きながら、穏やかに過ごして頂けるように支援を行っている。職員も入居者様との会話を大切にしており、その会話からそれぞれの現在の気持ちや要望などを引き出すように努力している。今までは外出が出来る時は入居者様全員を連れて出かけ、気分転換をはかっていたが、現在はコロナウィルスの影響もあり、外出が少なくなった為、施設内でのレクリエーションや体操に力を入れている。又、季節の行事などを大切にしており、行事食はもちろんのこと職員と入居者様と一緒に出来る壁画や吊るし雛などの作製も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧北上川沿いの広々とした田園風景が広がる地域に、2017年に「有限会社ペイント・プランニング」が開所した、1ユニット平屋造りである。理念「共に気遣い 寄り添い 支え合い」を、毎年、年度初めに職員で確認し合い、利用者の残存能力に合わせ、できることを大切に、ケアに努めている。利用者の状態を把握し、より良いケアになるよう工夫していることが数々の取り組みに表れている。コロナ禍で様々なことを自粛せざる負えない状況において、レクリエーションや季節の行事を充実させ、体操などのリハビリを積極的に取り入れ、身体機能を維持し、楽しみを見い出せるよう支援している。利用者が楽しく食事ができるよう工夫しながら、当日職員がメニューを考え買い物や調理を行っている。栄養チェックは、今後、町の管理栄養士に確認してもらうことにしている。事業所は職員の資格取得に対して支援し、職員から出された意見を日々の介護計画やケアに取り入れ、一人ひとりがやりがいと責任をもってケアに取り組めるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23、24、25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9、10、19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18、38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2、20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36、37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11、12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30、31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム田園 ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで理念を基に入居者様への対応について再確認する場を設けている。職員も理念を意識しながら、入居者様の対応を行なっている。	年1回、理念である「常に気遣い、寄り添い、支え合い」を、4月のミーティングで振り返り、毎月のミーティングで言葉遣いなどを確認している。自立支援を大切に、ひとつできなくなっても、他にできていることが続けられるように工夫し、家族のような対応を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウィルスの蔓延の為、認知症カフェの中止、老人クラブの縮小等で地域との交流が少なくなってきたが、畑で取れた野菜等は近所の方に配ったりしている。	例年は、老人クラブ主催の敬老会や収穫祭、クリスマス会、カラオケなどに参加していた。また、利用者と職員が認知症カフェに参加し地域との交流を深めていた。コロナ禍により地域行事などが中止され交流が希薄になったが、ホームの畑で作った野菜を近隣住民に届けたり、調理した料理を差し入れてくれるなど、今まで築いてきた関係が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナウィルスの蔓延の為、地域の行事の中止や認知症カフェ中止等があり、前年のように地域貢献活動ができない状況であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の現状や問題点を報告し、質問や助言を頂いたものは当施設のサービス提供を見直し、改善に向けて取り組んでいる。前回の外部評価での目標についても報告し、栄養士さんへの協力もしていただけたことになった。	奇数月に区長、地域包括職員、市職員、老人クラブ会長、民生委員、家族、管理者で開催している。コロナ禍で今年度1～3回は書面で事業所の現状を報告し、4回目は感染防止対策を徹底して開催した。目標達成計画の課題に対し検討した結果、役場の栄養士から助言が受けられるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設の状況を報告し、助言や確認を行なっている。当施設だけではなく他の施設の状況も伺いながら当施設の運営に役立たせている。市からの研修の案内にも積極的に参加している。	運営推進会議に市職員が参加しており、連携が図られている。市から研修案内があり職員が参加している。新型コロナウイルス感染症防止対策について、都度、役場に確認しており、マスクや消毒液、手袋、ガウンの支給を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修にも参加し、ミーティング時に施設内研修も行ない、身体拘束について話し合っている。ご家族様には入居の際に説明、同意を得ており、身体拘束をやむを得ず行なう場合にも必ずご家族様に説明し、同意を得てから行なっている。	外部研修と内部研修をあわせて年2回実施し、全職員で日常のケアを振り返っている。コロナ禍のため、感染防止を考慮し外部から人が入室しないように一日中施錠している。安全確保のため家族の同意を得て、離床センサーを使用している人もいる。外出要求が強い人には、同行しながら気分転換に出かけたり、談話して意向を把握している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に参加し、ミーティング時に施設内研修も行ない、身体的虐待のみではなく精神的な虐待も起きないように話し合っている。ミーティングや申し送りを入居者様の状態を把握しており、各自の行動に責任を持って業務にあたっている。	年1回、身体拘束防止と共に研修を実施している。ミーティング時にも日常のケア中の言葉遣いなどを振り返り検討し、利用者を尊重した支援ができるよう努めている。一人ひとり利用者合った声掛けを工夫している。職員は管理者と面談し、日常的にも話しやすい環境づくりを行い、不適切な言動は諭すように話し、ストレスの軽減を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や地域包括支援センター等関係者との連携を持ち、なんでも相談できる関係を築けるように努力している。又、相談した内容や助言等は申し送りやミーティング時に職員に報告している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に説明し、同意を得てから契約書に署名を頂いている。契約内容の変更や改定の際には、ご家族に説明し、同意書に署名を頂き管理をしている。不安や疑問等は随時お話を伺い対応している。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪時には現状を報告し、その都度ご家族様の気持ちをお伺いしている。現在はお手紙やお電話での報告を多めに行なっている。問題が発生した場合は、ご家族様に連絡し、説明させて頂き、理解して頂けるように務めている。	コロナ禍で利用者の状況を手紙や電話、写真で知らせている。家族が面会や支払いで来所した際に、要望などを聞いている。介護計画作成時も家族に要望を聞いて反映している。家族から言葉遣いについてなど、出された意見や要望は確認し、改善に繋げている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の活動やミーティング等で職員からの提案や意見等を伺うようにしており、検討・話し合いの上、日々の介護に反映している。	年1回、職員は管理者と面談を行い、要望や人間関係、ストレスなどについて話し合っている。資格取得時は勤務体制にも配慮し、費用の支援もある。ミーティング時や申し送りノートをととしても意見を聞いており、特にケアについては日常的に意見交換をし、改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に研修や資格取得の支援等を行ない、スキルアップすることで意欲的に仕事ができるように配慮している。管理者は三ヶ月に1回職員への就業環境について伺い、職員の気持ちを尊重し、働きやすい環境作りを心掛けている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加・病院受診等多職種との関係を持つことで情報や知識を得る機会を設けている。個々のスキルアップに繋がるように環境づくりに努めている。			
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	前年は認知カフェ等を通じて情報交換等を行なうことが出来たが、今年度はコロナウイルスの蔓延の為、認知症カフェも中止となり、同業者との交流の場がない状況である。	豊里町内にある他のグループホーム事業所と運営やコロナ対策で連携しており、事業所の立ち上げから長年にわたりアドバイスをされている。地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し、情報交換を行い交流している。水害時には、近くの小高い場所にある施設と提携し、デイサービスやショートステイからも避難協力を得ることにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安をなるべく軽減できるように本人の現在求めている支援は何かを把握し、本人の現在出来ることはしてもらいながら役割を持ち、自分の居場所を作り、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所時にご家族様の不安や要望をお伺いしており、その都度お手紙やお電話で状態を説明する際にご家族様のお気持ちを伺っている。又、相談しやすい環境づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様がその時望まれているサービスを把握するように努め、グループホームのサービスや病院・訪看との医療連携で体調管理や緊急時の対応を密に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご家族様を共同生活する仲間として捉え、日々の掃除、調理補助、洗濯物畳み、畑仕事等の家事を手伝って頂けるように取り組んでいる。入居者様個々の出来ることを把握し、一緒に取り組んでもらえる環境づくりを行なっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来所時にはご本人様の現況を報告し、請求書を送る際にも一緒にお手紙を同封し、本人の現況やその時の問題を話し合わせて頂いている。ご本人様が快適に過ごせるようにご家族様と協力して取り組んでいる。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前年は面会の時間を大切に頂き、楽しい時間が過ごせるように環境の提供や一緒に写真を撮る等、思い出作りに繋げていたが、今年度はコロナウィルスの蔓延の為、面会できない状況が続き、ご家族様以外との関係が継続できない状況となっている。	コロナ禍で面会や外出機会が減ったので、生活歴を工夫しながら継続できるように取り組んでいる。事業所内に神社を作って元朝参りをしたり、つるし雛づくりをするなど、事務所内でできる地域の季節行事を多く取り入れている。馴染みの店での外食の代わりに、テイクアウトを利用し楽しんでいる。ラジオ体操やダンベル体操などで機能維持を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人が出来ることを把握し、日常の家事やレクリエーションを通して、入居者様同士が助け合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者についてはご家族様や入所施設等からの問い合わせや相談には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の日常の会話や行動からご本人様の想いや要望をくみ取るようにしており、レクリエーションや食事に反映している。希望によっては職員が代理で希望の物を購入する場合もある。	常日頃から会話を大切にし、声掛けするように努めている。利用者から行きたい場所や食べたいものを聞き、活動やメニューに取り入れている。幼いころの体験や日常生活の様子、TVで映る懐かしい場面から話題作りをするなど、思いをくみ取っている。得た情報から、手芸や塗り絵などの趣味や畑仕事、利用者一人ひとりの希望を叶えられるよう活動に活かし、写真に収めて家族に送付している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の中で日常的に行ってきたことや趣味等を把握し、施設の生活の中で今まで行ってきたことを活かせる環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の日常会話や行動から一日の流れを把握し、施設の生活の中で継続して行えるように支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で職員が気づいたこと等月1回のミーティングでモニタリング・アセスメントをしており、介護計画に結び付けている。状態の変化に伴い、ご家族様と話し合いを行い、介護計画の変更をし、支援している。	半年に1回、家族の要望を把握し、利用者の状態や日々の生活記録、職員からの意見をもとに介護計画を見直している。医師や訪問看護師からの意見も反映している。状態が変化した時には都度確認し、介護計画を変更した場合はケアマネジャーが家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録し、職員間で毎日申し送りを行ない、気づいたこと等職員同士ですぐに話し合っている。個々の情報交換をし、月1回のミーティングで話し合い、支援に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態や精神状態の悪化に伴い、施設での生活に支障をきたすようになった場合を考えて、医療・訪看・老健等の多職種と連携を行ない、ご本人様にとって最善の方法を支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度は認知症カフェを通し、多職種や地域包括支援センターとの連携を密に行っており、個々の生活に繋げられるよう支援に役立てていたが、今年度はコロナウィルス蔓延の為、運営推進会議のみの連携となっており、現在できる支援を行なっている。			
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関をもとに病院受診を行ない、担当医とは入居者様の状況・問題点等を密に相談できる関係づくりをしている。	利用者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としている。今までのかかりつけ医に通院する人や、入居時に往診契約している人もいる。通院日には職員体制を考慮して、職員が同行できるようにしている。週1回、訪問看護師が健康管理に訪れ、リハビリ体操などの提案もある。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で週1回訪問看護を利用しており、入居者様の状態・問題点等を密に相談している。関係づくりも出来ており、緊急時の対応でも主治医との連携等について助言してもらえる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院の訪問に頻回に行き、現在の状況・状態を確認したり、聞き取りで把握し、その情報をご家族様に報告している。退院時も病院関係者との連絡を密に取り、スムーズに退院できるように連携している。			
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状況が重度化したり、終末期について施設での生活が困難になった時、次の施設入所検討等の説明を行っている。延命治療については入所の段階で説明し、同意を頂いてからご家族様・ご本人様の意向を確認書に署名して頂いている。	入居時に終末期の対応について家族に説明し、緊急時対応同意書に同意をもらっている。基本、看取りはしていない。重度化し入浴の際に機械浴が必要になったり、事業所での生活が困難になってきた時には、病院や特別養護老人ホームを紹介するなど連携しながら対応している。延命治療については協力医療機関に相談している。訪問看護ステーションとオンコールの24時間連携体制を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故等の場合、緊急搬送・救急車の手配等迅速な対応を行なっている。緊急時、入居者様の情報がすぐに説明できるように緊急持ち出し書類を準備している。			
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行ない、地震・水害の訓練もミーティングで職員全員集合する際訓練を行なっている。原発訓練は県の方針にそって、避難先の施設と契約を交わし、避難先にも職員・入居者様全員で避難経路を確認する為伺っている。	年2回、内1回は消防署立ち合いで日中・夜間想定避難訓練を実施している。地震や風水害の避難については、管理者が講習を受け、ミーティング時に伝達し職員と確認している。ノロウイルスなどの感染症対策も行い、まな板等の消毒の徹底、消費期限の確認、作り置きはしない等、徹底し取り組んでいる。コロナ禍で、地域と連携して行う火災訓練は今年度見送った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性や認知症の症状等を把握し、今までの生活歴やご本人様の人格を損なうことなく尊重し、言葉遣いに気を付けながら声掛け等の対応をおこなっている。月1回のミーティングでも理念を基に職員の対応について話し合っている。	年1回、プライバシーと守秘義務の研修を行っている。幼児に掛けるような言葉遣いにならないなど、注意している。呼び名は名字や名前に「さん」付けて呼んでいる。居室に入室する際はノックして確認を取り、換気などで扉を開放していても暖簾を下げ中が見えないように工夫している。排泄介助時はさりげなく声掛けし支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険を伴う行動や発言以外は施設として出来る範囲でご本人様の意向に添えるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な対応や職員の配置上で無理のない範囲でご本人様の希望に沿って過ごしてもらえるように支援している。体操やリハビリ等一日の流れに組み込まれているが、ご本人様の気持ちを大事にし、無理に行ってもらえないように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に洗面・整容の支援を行っており、洗面・整容の維持が出来ない方には職員が清潔な状態を保てるように手助けを行っている。希望者には白髪染めを行ない、2ヶ月に1回は職員の方で散髪をおこなっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、日常会話等から食事のメニューを反映させたりしている。行事食やお祝い食等入居者様に喜んで頂けるように味だけではなく、見た目も工夫している。食事の準備や片付けは常に一緒に行なっている。	当日、職員がメニューを考えて調理を行っている。食材は生協宅配で調達したり、職員が買い物に行ったり、利用者と畑で収穫した野菜を取り入れている。栄養チェックは、今後、町の管理栄養士に確認してもらうことになった。お祝いには松花堂弁当、誕生日には、ちらし寿司を用意したり、はらこ飯、鮭つけ丼など季節の旬のものや行事食も楽しんでいる。塩分量に配慮した提供を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高血圧・糖尿病等個々の症状に応じて、水分量や食事の量を調整している。調理担当の職員は塩分に気を付け調理をしている。又、個々の食事・水分摂取量を記録し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操をおこない、唾液の排出を促すと共に、毎食後口腔ケアの準備や声掛けを行なっている。常に清潔で快適な生活が送れるように支援している。必要な際は歯科受診も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態、排泄のパターン等を把握し、清潔で快適な生活が送れるように定期的な声掛けやトイレ誘導を行なっている。	排泄チェック表を作りパターンを掴み、一人ひとりに合わせ声掛けし支援をしている。夜間帯も一人ひとりのタイミングで声掛けを行い、ポータブルトイレを使用する人もいる。便秘対策として食物繊維、乳製品を摂ることやできるだけ体を動かすよう努めている。医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取・排便の状態を毎日記録しており、ミーティングでも排便の状況を話し合う機会を持っている。状態によっては担当医に相談し、整腸剤等の薬を処方して頂き、定期的な排泄が出来るように支援している。又、朝の掃除やリハビリ等を行い、身体を動かす機会を作っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中の暖かい時間に行ない、1日置きに入浴している。又本人の状態により入浴したくない場合は無理に進めることはせず、本人の意向に沿うように対応している。季節のお風呂を大切にしており、ゆず、リンゴ、お花等目で見えて楽しんで頂ける工夫もしている。	入浴は基本1日置きに午前中に行い、湯は溢れるくらいの湯量を用意し入浴している。花やりんご、柚子湯など季節湯で気分転換を図って楽しんでいる。入浴拒否の人には、無理強いせず声掛けを工夫している。その日の体調を考慮し、あまり長湯をさせないなど、一人ひとりに合わせた介助を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はお昼寝の時間を取り休んで頂いている。休憩時間でなくてもご本人様が希望される場合はお部屋で休んで頂けるような環境づくりをしている。夜間帯は排尿回数が多い方、歩行が不安定な方等居室にポータブルトイレを設置し安眠できるように配慮している。又、安眠できるように居室内の温度・湿度の調整を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のお薬袋があり、施設で管理し、服用の際には、職員が名前・日付・朝昼晩就寝等声に出して確認してから入居者様に飲んで頂いている。お薬の変更の際には申し送りノートに記入し職員が周知できるように支援している。ミーティングでも薬について話し合いを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野や趣味を把握し、なるべく自分で出来ることを継続して行ってもらえるように準備し、評価してもらえることで自信とやる気に繋がるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前年は個々の要望に沿って、出来る限り外出の機会を持ち、季節ごとの花を見学したり、外食をしたり、地域の方との交流も行っていったが、今年度はコロナウィルスの為、入居者様の希望に沿うことが出来ない状況であった。	コロナ禍以前は花見などの年間行事をたて、ドライブをしたり、日常的には買い物や散歩に行っていた。現在は、事業所内で行うイベントを充実させ、ウッドデッキで外気浴をしながらおやつを食べたり、畑仕事や敷地内を散歩し気分転換をしている。介護施設のカフェに食事に行ったり、テイクアウトで弁当を食べることもある。	コロナ禍でも、利用者が生きがいや楽しみを見出すことのできる活動や外出支援を工夫することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方は少ないが、使用した後は職員が残金を確認し、トラブルが起きないように対応している。又、お金を所持していない入居者様でも要望により、施設で立替えて買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿って、電話をかけたりしている。手紙が書けない方には請求書を送る際にご本人様の要望を代筆して伝えるようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度等)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に湿度や温度管理を行ない、快適に過ごせるように支援している。又、季節の飾りを職員と入居者様で作成し、ホール・廊下・各居室に飾らせて頂き、楽しい空間づくりに心掛けている。	ホールは明るく、テーブルやソファが置かれ、利用者は思い思いに過ごしている。温・湿度を管理し、食事の時は感染予防を徹底し、配置を工夫したりパーテーションを立て対応している。日めくりカレンダーや時計が見やすい位置に掛けられ、季節に合わせ利用者と一緒に手作りした作品が飾られ居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の席は決まっており、なかなか移動することはないが、各自の居室に呼び込み話をしたり、廊下にある長椅子に座り、外を見ながら会話をされたりお互いの空間の共有ができるようにしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階でご家族様にご本人様の愛用しているものや慣れ親しんだものを持参して頂くように説明させて頂き、ご本人様の過ごしやすい環境づくりをしている。ご家族様の写真や入所後に作成した作品を飾ったりしている。	居室には、ベッド、クローゼット、ハンガーラック、エアコン、ナースコールが備え付けられている。テレビやタンス、テーブルやカラーボックスなどを持ち込み、安全に配慮し配置されている。手作りの作品や写真、小物などが飾られ居心地の良い部屋にしている。掃除は毎週日曜日に職員がシーツ交換と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールと廊下を広めにとり、歩行に支障がないように配置されており、廊下には2ヶ所の長椅子を設置し、座って入居者様同士が会話をしたり、休んだりする場を作っている。主要な各場所には手すりがあり、杖や歩行が不安定な方でも安全に歩行できるようにしている。		